

【議事録】

実施日時 令和8年7月14日（金）午後1時30分から午後2時40分まで

会議名	令和8年度第1回 八潮市地域福祉計画推進委員会会議	実施場所	八潮市役所3階 3－4会議室
目的	■進捗会議 □説明会 □研究会 □レビュー □Q & A □打ち合わせ □その他		
件名 議題	1 開会 2 諮問 3 議事 （1）アンケート調査結果について （2）第4期八潮市地域福祉計画骨子案について 4 その他 5 閉会	資料	有■ 無□
提供 資料	・次第 ・資料1「八潮市地域福祉計画策定のための アンケート調査結果 報告書（案）」 ・資料2「第4期八潮市地域福祉計画骨子案について」	傍聴者数	0人

内容
議事概要 <u>(1)アンケート調査結果について</u> <u>質疑応答</u> （ 委員 ） アンケート調査について、配布数 2,000 件に対する有効回収率 32.8%という結果は一般的な水準なのか。また、この回答数で市民の意向を十分に反映した調査結果と考えてよいのか伺いたい。 （ 事務局 ） 地域福祉計画に関するアンケートの回答率は、一般的には 30～40%程度となっている。今回の調査では、655 件の有効回答を得ており、回答数として一定の規模を確保できたものと考えている。 また、Web 回答を導入したことにより、これまで回答が少ない傾向にあった若年層からも一定数の回答が得られている。年代別の回答数についても大きな偏りは見られず、クロス集計による分析も可能であることから、市民全体の傾向を把握するための調査として活用できるものと考えている。 （ 委員 ） 資料 15 ページ、「困ったときに、実際に助けを求められる人はいますか。」という質問について、困ったときに助けに来てくれる人がいると回答した方が多くなっている。一方で、17 ページの「災害時や緊急時に、助けを求められる相手はどなたですか。」という質問の回答を見ると、家族以外の支援者を挙げることは難しい実態がうかがえる。 これらの結果は避難行動要支援者名簿の「近所に住む手助けをしてくれる人」について多くの人が記入に苦慮している現状と関連するものと考えている。これを踏まえ、要支援者名簿における支援者に関する記載要件の見直しや、民生委員・児童委員などを紹介する仕組みの構築について検討していただきたい。

（ 事務局 ）

ご提案いただいた内容について、計画や事業の中で検討していきたい。

（ 委員 ）

アンケート結果からは、地域での支え合いの必要性を感じている方は多い一方で、自ら活動に参加することには消極的な傾向が見受けられた。また、困りごとが生じた際に相談先が分からない方も多いと考えられるため、平時から相談窓口や支援制度を分かりやすく周知し、必要な情報が必要なときに届く仕組みづくりが重要であるとする。

（ 委員長 ）

地域住民が困りごとを抱えた際に、どこへ相談すればよいのか分からないという状況がある。地域には様々な支援体制が整備されているものの、その利用方法や相談先が十分に周知されていないことが課題であり、困りごとの内容に応じた相談先が分かりやすく伝わる仕組みづくりが必要であると考えている。

（ 委員 ）

資料 24 ページ、「あなたが日常生活に困りごとのあったときや、気がかりな人に気づいたとき、「あれば相談や行動がしやすい」と思う仕組みは何ですか。」という質問に対し、「一つの窓口で相談を受け付けてほしい」「身近な相談窓口がほしい」といった意見が多く見られる。

この結果を踏まえ、今後どのような相談支援体制を目指していくのか。また、地域づくりの取組にどのように反映していく考えか伺いたい。

（ 事務局 ）

相談窓口については、一つの窓口ですべての課題を解決することは難しいと考えている。そのため、窓口を集約するのではなく、それぞれの相談窓口が連携しながら対応できる体制の充実を図っていきたい。また、地域づくりにおいても、相談を受けるだけでなく、地域へ働きかける視点を取り入れながら、相談体制の充実を進めていきたい。

（ 委員長 ）

市民が相談に訪れた際には相談内容にかかわらずまず受け止め、適切な部署や関係機関へつなぐ「断らない相談支援」の考え方が重要である。地域ごとに相談窓口を設置するのか、市役所内に集約するのかといった点についても、今後検討が必要である。

（ 事務局 ）

現在も、市民からの相談に関しては担当外であることを理由に断ることなく受け止め、必要に応じて適切な部署や関係機関へつなぐ対応を基本としている。

(委員)

北部地区には、高齢者が地域住民と交流しながら活動するための拠点施設（すえひろ荘）があり、多くの方の居場所として重要な役割を果たしている。一方で、すえひろ荘については、現在進められている北部拠点まちづくり推進地区まちづくり計画の中に含まない方向で検討されていると伺っている。

地域福祉を推進する観点からは、まちづくり計画の中に位置付け、引き続き地域の交流や支え合いの拠点として活用していくことが望ましいと考えるが、地域福祉計画とまちづくり計画との連携について、どのように考えているのか伺いたい。

(事務局)

市内の公共施設については、担当部署において施設の集約や廃止、建替え等を総合的に検討しているところである。そのため、地域福祉計画の中ですえひろ荘について盛り込むことは難しいが、ご意見については担当部署へ伝達させていただく。

(2)第4期八潮市地域福祉計画骨子案について

質疑応答

(委員)

今回示された計画案について、第3期計画と比較すると全体的に抽象的な表現が多いと感じている。第3期計画では、基本目標ごとに具体的な取組内容が示されており、市民にとっても分かりやすい内容であったが、今後どのような記載内容とする予定か伺いたい。

(事務局)

今回の資料は計画の大きな方向性を示すものであり、現段階では具体的な目標設定まで整理できていないため、抽象的な内容としている。今後、素案の作成にあたっては、目標や指標、関連する事業内容について整理し、内容が市民に分かりやすく伝わるような形で作成していく予定である。

(委員長)

今回提示された4つの基本目標について、これを大きな目標として掲げるのか、それとも今後整理して、さらに具体的な目標や事業内容につなげていく構成となるのか確認したい。

(事務局)

4つの基本目標については、計画全体の大きな方向性を示す目標として位置付けるものである。この基本目標の下に、それぞれの考え方や具体的な事業等を整理していく構成を想定している。

(委員)

第3期計画では、各種調査結果や困難事例把握調査等を踏まえ、地域の現状と課題を整理していたと認識している。今回の計画案では、これらの部分が住民アンケート調査の結果のみを基に整理されるようにも読み取れるが、そのような理解でよいのか。

（ 事務局 ）

今回の計画策定にあたっては、地域福祉計画の住民アンケート調査だけではなく、同時期に策定を進めている高齢者福祉計画・介護保険事業計画や障がい福祉計画において実施したアンケート調査の結果等についても活用しながら、地域の現状や課題を分析していきたいと考えている。